

中期財政計画工程表（概要）

～ 財政健全化に向けた取組方針 ～

1 計画の位置付け

中期財政計画目標(R16末) (R7.2計画策定)

- 県債残高：1,000億円削減(R6末比)
- 将来負担比率：400%以内
- 実質公債費比率：18%以内
- プライマリーバランス：毎年黒字

工程表策定の趣旨

中期財政計画の試算をローリングした上で、目標達成を確実なものとするため、財政健全化の実現に向けた取組方針及び具体的な取組を示す

現状認識と課題

- サマーレビューによる事業見直しや国庫等の確保努力により、R8当初予算の収支差は縮小したもの、赤字地方債である資金手当債の発行からの脱却が必要

※収支差:R7当初△550億円⇒R8当初△285億円
※資金手当債発行額:R7:80億円、R8:50億円

- 財政健全化と未来への投資の両立を実現するため、施設整備の進度調整や資金手当債の発行解消など、目標達成（通常債残高1,000億円削減）に向けた多面的な対策が不可欠

2 今後の取組方針と財政見通し

- 不断の見直しによる、歳入・歳出の収支差（ミスマッチ）の縮小
必要な財政調整用基金残高の確保（目標：500億円）
- R10までに資金手当債の発行額をゼロ
- R16末に通常債残高を1,000億円程度削減
⇒R10末に通常債残高を300億円程度削減

収支差(ミスマッチ)と財政調整用基金残高

<当初予算編成後>		改 革 强 化 期 間				(単位:億円)
区 分		R 7	R 8	R 9	R 10	
収支差 (R7.2試算) *	※R8は編成通知時の試算額	△550	△640	(△562)	(△548)	(△520)
<u>サマーレビュー等により水準が改善</u>						
収支差 (今回試算) A	A	△550	△285	△242	△235	△200
うち不断の見直し		136	166	50	50	50
財政調整用基金残高 B	B	54	180	255	318	565
収支差+基金残高 A+B		△496	△105	+13	+83	+365

通常債残高

<決算ベース>		改 革 强 化 期 間					(単位:億円)
区 分		R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	
R 7.2 試算	資金手当債 発行額	70	90	90	90	90	90
	通常債残高	15,845	15,809	15,767	15,793	15,762	15,848
工程表 (今回)	資金手当債 発行額	70	80	50	30	0	0
	通常債残高	[16,214] 15,846	[16,196] 15,828		15,714	15,600	(△371) 14,792 (△1,054)

※R7～：2月補正ベースにR6→7繰越同額を反映

※赤字()内はR6未比

3 歳出・歳入の見直し

改革強化期間（～R10）において、
不断の見直しを実施
<目標額> R9、R10：△50億円／年



以下を改革取組として位置付け

人件費

●定員適正化計画の実行

- ・今後の人口減少を踏まえた職員数の適正化
- ・業務量の削減
- ・行政の生産性向上
- ・組織運営体制の再構築

ファシリティマネジメント

●県有施設の総量適正化

- ・R8末までに各施設のあり方の方向性を決定（廃止・集約・縮小等）
⇒個別施設計画の見直し

●維持管理コストの適正化

- ・中期維持保全計画の見直し

投資的経費

●社会インフラ整備

- ・国庫の最大限活用
- ・繰越額の縮減

●県単独の大規模プロジェクトの見直し

- ・実施時期、規模、運営手法の検討

●個別施設整備計画の平準化

その他

●県債調達方法等の見直し

●県単独補助金の点検、補助率等の見直し

●外郭団体の点検・評価、あり方検討ほか